



Title	堂友會夏季見學會記
Author(s)	藤塚, 誠二
Citation	懷德. 1976, 46, p. 54-54
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90542
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

堂友會夏季見學會記

昭和五十一年七月十七日(土)十八日(日)滋賀縣
湖西方面、參加者五十名)

指導講師 滋賀縣立短大教授宇野茂樹先生

藤塚堂友會委員記

七月十七日(土) 湖西線堅田驛午前十一時二十分集合、
十一時三十分借切バスで、明王院、客舎比良裏登山口前、
比良山莊に向う、その途次先づ、還來(もどろき)神社
參拜(祭神淳和天皇后祇子)この神社に祈願すれば、旅
人や出征した人達は、無事還つて來るといふので、太平
洋戦争の頃は、全國から多數の參拜者があつた由である。
それから昔の街道筋、途中(地名)の雜草茫々の中にある
巨岩の大部分磨滅している磨崖佛を見た。正午過ぎ客舎
着、うまい冷し素麵の晝食。一服して客舎のすぐ傍にある
明王院を守護する地主神社參拜(祭神國常立命立像、
男神坐像、女神坐像等の重文がある)、それより同神社
の前の小さい朱欄の橋を渡り、叡山の回峰行者が修驗道
的な修行をした天台宗明王院(本尊觀世音菩薩、重文)
に至つて、宇野先生と同院の世話役葛野常滿氏の説明拜
聴、尙葛野氏の好意により、足利義滿(自筆)義政義尙
等の參籠札を拜觀、午後六時頃客舎で一浴後夕食、膳に

は鯉の洗いを初め、鮎の鹽焼、小鮎の佃煮、山菜、その他色々な料理で盛り澤山。魚は生簀から掬うて來て、すぐ料理するので、新鮮美味堂友會史上最高の料理である。達磨然たる酒井委員、例によつてチビリチビリと酒は靜かに飲むべかりけりか、漫才的口調で人を笑わす話術の持主、中川委員至つて物靜かな中島委員、隅々までよく響きわたる美聲の三原委員、斯く言う拙者は詩吟狂、イヤアいつに變わらぬ和氣藹々である。十時就寢。

翌朝(日)六時頃起床朝食までにと三々五々客舎より四十分ほど登つた所の瀧見物としゃれた人々もあつた。八時半頃朝食。十時半借切バスで朽木の興聖寺を訪ね、重文本尊釋迦如來を拜し、宇野先生と住職の説明があつて寺門の舊秀隣寺院庭園の見事な石庭を、住職の説明で見學、藤樹書院宅址に至り藤樹先生の後裔と稱する管理人の説明を伺い携帯の比良山莊の辨當を開く。書院を辭して、鵜川の四十八體佛(石像、縣重文)を見て、白鬚神社に參拜、宇野先生の説明、宮司から神社の由來の説明拜聴、今回の見學會を終る。

月曜の自動車の混雜を避けて解散場所を今津驛に變更、午後四時解散。

見學先の社寺については今れも宇野先生の詳細な説明のあつたことを附言しておく。